

報道関係のお問い合わせ

■ 102-8322 東京都千代田区北の丸公園3-1 東京国立近代美術館

■ 電話: 03-3214-2561(代表) / ファックス: 03-3214-2576 ■ メール: pr@momat.go.jp

展覧会概要

タイトル	ぬぐ絵画—日本のヌード 1880-1945 Undressing Paintings: Japanese Nudes 1880-1945
会期	2011年11月15日(火)–2012年1月15日(日)
開館時間	午前10時–午後5時(金曜は午後8時まで、入館はいずれも閉館30分前まで)
休館日	月曜日(ただし2012年1月2日、9日は開館)、年末年始(12月28日–1月1日)、1月10日(火)
主催	東京国立近代美術館
会場	東京国立近代美術館 1F企画展ギャラリー 〒102-8322 東京都千代田区北の丸公園3-1
アクセス	東京メトロ東西線竹橋駅1b出口 徒歩3分
観覧料	一般850(600)円 大学生450(250)円 高校生以下および18歳未満、障害者手帳等をご提示の方とその付添者(1名)は無料。 ()内は20名以上の団体料金。いずれも消費税込。
お問合せ	03-5777-8600(ハローダイヤル) http://www.momat.go.jp (ホームページ)
イベント	講演会 * 詳細はHP等でお知らせいたします。 ①横尾忠則(美術家): 11月26日(土) ②岡崎乾二郎(美術家): 12月3日(土) ③蔵屋美香(本展企画者、美術課長): 12月10日(土) いずれも14:00–15:30 * ①と②は要申込(応募者多数の場合は抽選)、聴講無料(140名) ギャラリートーク * 詳細はHP等でお知らせいたします。 ①「黒田清輝とヌード」山梨絵美子(東京文化財研究所): 11月20日(日) 14:00–15:00 ②「萬鉄五郎とヌード」根本亮子(岩手県立美術館): 12月11日(日) 14:00–15:00 ③「古賀春江とヌード」大谷省吾(当館主任研究員): 12月17日(土) 14:00–15:00 ④「〈ぬぐ絵画〉について」蔵屋美香(本展企画者、美術課長): 1月6日(金) 18:00–19:00 ⑤「安井曾太郎とヌード」貝塚健(ブリヂストン美術館): 1月8日(日) 14:00–15:00 * 申込不要・参加無料(要観覧券)
同時開催	◆所蔵作品展「近代日本の美術」所蔵品ギャラリー(4F–2F) 関連企画「ぬぐコレクション」 → p.7 会期: 2011年10月29日(土)–2012年1月15日(日) ◆「ヴァレリオ・オルジャティ展」ギャラリー4(2F) 会期: 2011年11月1日(火)–2012年1月15日(日) いずれも観覧料: 一般420(210)円 大学生130(70)円 高校生以下および18歳未満、キャンパスメンバーズ、MOMATパスポートをお持ちの方、65歳以上、障害者手帳等をご提示の方とその付添者(1名)は無料。 ()内は20名以上の団体料金。いずれも消費税込。 * 「ぬぐ絵画—日本のヌード 1880-1945」展の観覧券で、当日に限り、所蔵作品展「近代日本の美術」「ヴァレリオ・オルジャティ展」もご覧いただけます。

芸術か？わいせつか？

重要文化財から問題作まで約100点でたどる、日本のヌード絵画総まくり！

■今日も盛んに描かれ続ける、はだかの人物を主題とする絵画。絵といえば、風景や静物とともに、まずは女性のヌードを思い浮かべる方も多いのではないのでしょうか。

■しかし、はだかの人物を美術作品として描き表し、それを公の場で鑑賞するという風習は、実はフランス、イタリア経由の「異文化」として、明治の半ば、日本に入って来たものでした。以後、これが昭和初頭に定着するまで、はだかと絵画をめぐる、描く人(画家)、見る人(鑑賞者)、取り締まる人(警察)の間に多くの葛藤が生じることになりました。

■「芸術にエロスは必要か」「芸術かわいせつかを判断するのは誰か」にはじまり、「どんなシチュエーションならはだかを描いても不自然ではないのか」「性器はどこまで描くのか」といった具体的な事柄まで、これまで多くの画家たちが、はだかを表現するのに最適な方法を探ってきました。

■この展覧会は、今日も広く論じられるこうした問いの原点を、明治から昭和初期までの代表的な洋画作品約100点によってご紹介するものです。

1 はだかを作る

「芸術としてのはだか」を作り出すため、日本人離れしたプロポーションにしてみたり、腰巻で下半身だけ隠してみたり。明治の画家たちの四苦八苦をご紹介します。

出品作家：黒田清輝、和田英作など



和田英作
《こたま》1903年
泉屋博古館分館

2 はだかを壊す

大正期、前衛美術の動きを受け、はだかを使った造形実験が行われます。まるでロボットのようなだったり、できるはずのないおかしいポーズをしていたり、そんなちょっと変わったはだかをご紹介します。

出品作家：萬鉄五郎、熊谷守一、古賀春江など



萬鉄五郎
《もたれて立つ人》1917年
東京国立近代美術館

3 もう一度、はだかを作る

昭和に入ると、壊れてしまったはだかをもう一度組み立て直すような動きが現れます。「アトリエに、いかにも日本人らしいプロポーションの雇われモデルが寝そべっている。そばには脱いだどてらが・・・」などと、生々しいはだかが登場するのもこのころです。

出品作家：安井曾太郎、小出檜重、梅原龍三郎など



安井曾太郎《画室》1926年
公益財団法人ひろしま美術館

作品にはていねいな解説パネルが付けられています。
だから思いがけない発見がいっぱい。たとえば・・・

{ 見どころ 1 }



タイトルは「智」「感」「情」。
思わせぶりだけど
意味わかんない・・・。

すっぱだかで
まじめな顔、
なんで？

黒田清輝 《智・感・情》
1899(明治32)年
東京国立博物館
重要文化財

最近、現代美術家の村上隆さんが「模写」したことで話題になったこの作品。
謎めいたタイトルの意味ははっきりわかっていません。
モデルは小川花・幸という姉妹。
完璧な7.5頭身で、明治の女性としてはありえないスタイルの良さです。
実は、思わせぶりのタイトルも、実物から遠く離れた手足のなが〜いスタイルも
「これはそこらにあるいやらしいはだかなんかじゃなく、芸術なんだぞ」と
「ふつうのはだかじゃない」ことを主張するための雰囲気作りなのです。
女性器周辺がつるつとしていて何も無いのも
「エッチなこと考えるなよ、はだかじゃなくて芸術なんだから」という言い訳のひとつなのでしょうね。

いろんな疑問も解けますし・・・

{ 見どころ 2 }



日本近代美術史上
もっともきれいなお尻。
* 展覧会担当者調べ

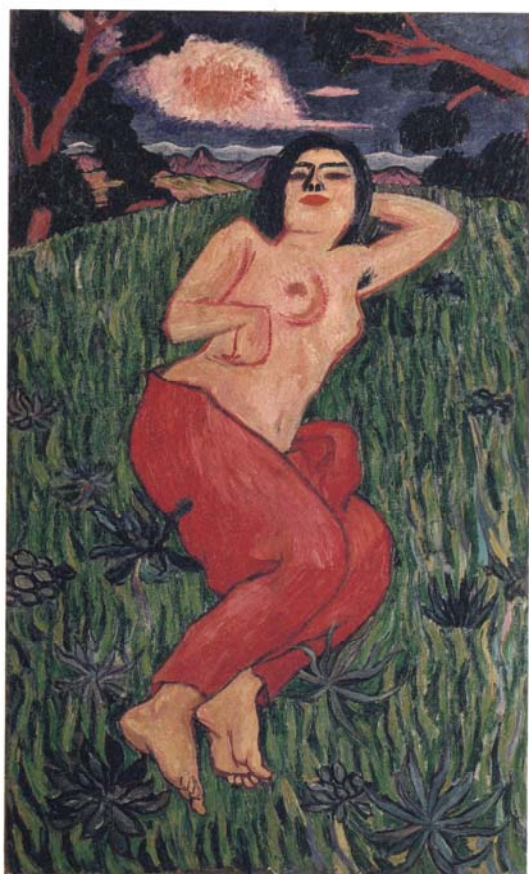
でも、この人
何をしている
ところなの？

原撫松 《裸婦》
1906(明治39)年
東京藝術大学

この女性、壁に映った自分の影をなぞって、絵を描いているのです。
おそらく、ある娘が、戦場へ行く恋人の影をなぞって壁に絵を描いたことで
この世に絵画が誕生した、という、ギリシャ・ローマの神話「絵画の起源」を踏まえたものです。
この主題を取り上げるにあたって、なぜはだかである必要があったのかはわかりません。
しかし、壁に向いて立つというポーズが、
きれいなお尻を描くのちょうどぴったりだったことだけは、
まちがいありません。

こんな突っ込みにだってお答えします

{ 見どころ 3 }



タイトルは《裸体美人》。
でも真っ黒な鼻の穴に腋毛まで！
これってほんとに「美人」なの？

赤い腰巻して
草原に寝てるなんて
シチュエーション、
ふつうありえないでしょ。

萬鉄五郎 《裸体美人》
1912(明治45)年 東京国立近代美術館 重要文化財

「草原に寝そべる腰巻姿の美人図」は、
萬の先生である黒田清輝の十八番でした。
わざわざ同じ画題でこんなに刺激的な「美人」を描いたのは、
萬の反抗心ゆえでしょうか。
ちなみにこの腋毛、
「日本近代美術史上もっとも濃い(!)」とか
(* 展覧会担当者調べ)。
もし腰巻がなかったら・・・下はどう描かれていたんでしょうね。



黒田清輝 《野辺》1907年
ポーラ美術館

さらに！東京国立近代美術館はこの時期全館あげてはだかを取り上げます

所蔵作品展「近代日本の美術」内 関連企画
「めぐコレクション」(仮称)

当館の1万点にのぼるコレクションより、
はだかを主題とする洋画、日本画、彫刻、写真などを、
4F-2F、約3,000㎡の会場のあちこちに展示します。
「めぐ絵画」展開催中は、同展のチケットでそのままご覧いただけます。



土田麦僊《湯女》1918年
東京国立近代美術館 重要文化財



↓こんなコーナーも・・・

特集:重力と女性像

明治から大正期の彫刻に現れる
「くずおれる女性像」の数々をご紹介します。

北村四海《イヴ》1915年 東京国立近代美術館

◆所蔵作品展「近代日本の美術」所蔵品ギャラリー(4F-2F)内

関連企画「めぐコレクション」(仮称)

会期:2011年10月29日(土) - 2012年1月15日(日)

観覧料:一般420(210)円 大学生130(70)円

高校生以下および18歳未満、キャンパスメンバーズ、MOMAT/パスポートをお持ちの方、65歳以上、
障害者手帳等をご提示の方とその付添者(1名)は無料。

()内は20名以上の団体料金。いずれも消費税込。

*「めぐ絵画—日本のヌード 1880-1945」展の観覧券で、当日に限り、所蔵作品展「近代日本の美術」
「ヴァレリオ・オルジャティ展」(11月1日～)をご覧いただけます。

めぐ絵画—日本のヌード 1880-1945
 広報用画像&読者プレゼント招待券申込書 (FAX専用)

お名前： _____ ご所属： _____

出版物・放送番組・Webサイト名： _____



発行・放送予定日(日時)： _____ 年 _____ 月 _____ 日 _____ : _____ ~ _____ :




ご住所：〒 _____

TEL： _____ FAX： _____

メールアドレス： _____

* 貸出ご希望画像の口にチェックをつけてください

		
<p>① <input type="checkbox"/> 黒田清輝《智・感・情》 1899(明治32)年 油彩・キャンバス 各180.6×99.8cm(3枚組) 東京国立博物館 【重要文化財】</p>	<p>② <input type="checkbox"/> 原撫松《裸婦》 1906(明治39)年 油彩・キャンバス 130.5×97.8cm 東京藝術大学</p>	<p>③ <input type="checkbox"/> 萬鉄五郎《裸体美人》 1912(明治45)年 油彩・キャンバス 162.0×97.0cm 東京国立近代美術館 【重要文化財】</p>

		
<p>④ <input type="checkbox"/> 萬鉄五郎《もたれて立つ人》 1917(大正6)年 油彩・キャンバス 162.5×112.5cm 東京国立近代美術館</p>	<p>⑤ <input type="checkbox"/> 古賀春江《烏籠》 1929(昭和4)年 油彩・キャンバス 111.2×145.0cm 石橋財団 石橋美術館</p>	<p>⑥ <input type="checkbox"/> 村山槐多《裸婦》 1914(大正3)年 油彩・キャンバス 61.0×41.0cm 町立久万美術館</p>

画像貸出希望日時	月	日	時頃までに希望
読者プレゼント招待券	組	名(合計)	枚)希望 (月 日までに送付)

プレス・イメージ貸出条件

1. 画像は、展覧会紹介の目的にのみご使用ください。
 2. データを第三者に渡すことは禁じます。使用后、画像データは消去してください。
 3. 展覧会の名称、期間、会場は、適切な場所、大きさを明示していただくようお願いいたします。
 4. 作品画像は全図で使用してください。部分使用やトリミング、作品に文字を重ねることはできません。
 5. 画像を掲載される際には、イメージ貸出時に添付するキャプション、クレジットをご記載ください。
 6. 掲載紙(誌)は、1部、企画展室宛にご寄贈ください。webサイトの場合は、掲載時にお知らせください。
- * 画像データ(JPEG)にてお貸出いたします。その際、一緒にお送りするキャプションもご確認ください。
 * 掲載前に、校正紙をお送りください。お送りいただけない場合、掲載内容についての責任は当方では負いかねます。